



体罰は柔道「女子」だけの問題か？

言葉のイメージ

私は二十代から、長年会社のスキー部に属し、合宿で色々な指導員に教わった。難しいのは、指導員のイメージとして云っていることと言葉から受けるイメージが違うこと。何

度も練習してやっと「何だ、こういうことだったか。こう説明すれば良いのに」と思う事がしばしば。

柔道女子で体罰

柔道女子で監督などの体罰についてJOCに訴えがあり、問題が明るみに出た。

監督側は「口で何度も言っているのに分からないからひっぱりたい」と云うのかも知れない。でも、本当は「相手が理解出来、体得できるようにするにはどう云えば良いか、分か

らないからぶん殴って」指導を放棄したと云うのが真相だろう。

男子柔道は？

今回、問題になった女子柔道の園田監督は、かつて男子柔道で世界チャンピオンになったことがある。しかし、あと一歩でオリンピック代表の座を逃していた。選手時代、コーチから体罰を受けて来たのでは無いか？ そうだからこそ、女子を指導しきれない時に体罰で誤魔化そうとしたのではないか。

今後、男子柔道界の体罰問題もしっかり調べて、柔道界全体の体質改善を図らなければならぬ。

全日本柔道連盟の幹部は皆「毎朝」首を洗っているのではないか。皆さんはどう思われますか？

大和市の住宅



四、五十年前、市営県営住宅と云えば平屋。引き戸の玄関。六畳、四畳半に台所という間取りだった。

大和の駅から西にほんの四、五分の所にそのような平屋の住宅が四軒並んでいた。これが建った当時、そこに入居する為に、大和の駅を降りた若い夫婦は、畑の中に建つ青い屋根の瀟洒な住宅を見て、希望に胸を膨らませていたに違いない。

同じ頃、叔父は大会社の中堅管理職。転勤もあり洗足池の社宅住まいだった。そこが、このような住宅であった。夫婦に私と同年代の男の子二人の四人家族で住んでいた。

一方、私の家は兄弟四人で六畳と四畳半二間だった。一つの四畳半には掘り炬燵があったので残りの二間で六人が寝ていた。